

【認知症対応型共同生活介護 用】

1. 第三者評価結果概要表

作成日：平成21年7月24日

【評価実施概要】

事業所番号	2873400663		
法人名	有限会社ほおずき		
事業所名	グループホームCHIAKIほおずき福崎		
所在地	(〒 679-2203) 兵庫県神戸郡福崎町南田原757-1		
	電話	0790-24-5600	
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区荻乃町2丁目2番14-703号		
訪問調査日	平成21年4月24日	評価確定日	平成21年7月24日

【情報提供票より】 [平成21年3月1日 事業所記入の同書面より要点を転記]

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年1月15日		
ユニット数	2ユニット (利用定員…計18人)		
職員数	12人	(常勤12人) (非常勤0人)	/ 常勤換算12人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	地上2階建て建物の 1階～2階部分		

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000円	その他の経費(月額)	23,000円	
敷金の有・無	有り () 円 ・ (無)			
保証金の有・無 (入居一時金含む)	(有) (300,000円) ・ 無し	(保証金有りの場合) 保証金償却の有・無	(有) ・ 無し	
食材料費	朝食	150円	昼食	350円
	夕食	350円	おやつ	50円
	または、1日あたり		900円	

(4) 利用者の概要 (平成21年3月1日 現在)

利用者人数	計18名	… (男性7名) (女性11名)	
要介護1	10名	要介護2	2名
要介護3	2名	要介護4	2名
要介護5	2名	要支援2	0名
年齢	平均84歳 … (最低78歳) (最高93歳)		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉田クリニック	よしだ歯科
---------	---------	-------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR福崎駅から車で10分、民家と田畑が混在する閑静なところ。敷地は広く、敷地内を歩くだけでも良い運動・気分転換になる。運営推進会議をきっかけに地域住民との交流も拡がり、地域の清掃活動への参加や、定例となったホーム主催のバザーも住民に感謝されている。ボランティアや中学生の職業体験学習の受け入れも、利用者と地域の人たちとの交流機会として継続して行われている。「ともに暮らす家族関係」を大切にしており、職員が結婚式の当日、式場に向く前にホームに立ち寄り、利用者と一緒に白無垢姿で記念写真を撮って喜びを分かち合う…といったそんな日常の1コマからも、ホームの暮らしの様子が伺える。運営面においても、年度ごとにホームの運営事業計画(7項目)が立てられ、職員の業務の標(しるべ)となっている。◎参考に、前回・前々回の外部評価時の資料写真も添付

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	①こども達との触れ合いについて中学校福祉部教員と協議中。②評価の意義は家族懇親会やホーム通信を利用して説明している。③運営推進会議の議事録を家族に送付する予定である。④家族からの意見は連絡ノートを活用し、全職員が共有している。⑤プライバシー保護については、繰り返し研修している。⑥災害時の地域との協力体制は今後の課題である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	職員全員で自己評価項目を分担して取り組み、管理者がまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6)
	運営推進会議は、利用者代表、家族、地域代表、地域包括支援センター職員、ホーム職員の構成により、2か月毎に開催している。会議での討議内容を町に報告しており、キャンメイト交流会、社会福祉協議会、町内の高齢者施設との交流のきっかけになった。今後は、地域への介護知識の環元についても、運営推進会議で検討して頂きたい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	利用者一人ひとりの笑顔を家族に見てもらえるよう、「一年の笑顔」の展示コーナーを設け、日頃の様子を撮った写真を飾っている。そのほか、日々の生活の様子は、毎月の「家族へのお便り」で個々に報告している。ホームの行事予定やお知らせは、ホーム通信「福咲の風」を月1回発行し家族に伝えている。今後の取り組みとして、運営推進会議の議事録や第三者評価の結果についての送付を予定している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	地域コミュニティ(理髪店、喫茶店、スーパー)の利用にも積極的で、買物や神社への散歩の際などには住民と気軽に挨拶を交わし、また、ホーム主催の夏祭りやバザーに地域の方を招待するなど地域交流を図っている。地域の方が散歩時に立ち寄られたことをきっかけに、その後ボランティアとして協力いただいたこともあり、今後は、少しでも多くの方々に気軽に訪問してもらえるよう、「福咲ふれあい喫茶」も計画している。

◎食事を楽しむことのできる支援
食事の準備、後片付けは協働で



◎役割、楽しみごと、気晴らしの支援
利用者の手作り作品
(得意な木工で…)



◎食事を楽しむことのできる支援
食事メニュー

作った料理の献立表		2月				
	2/25 月	2/26 火	2/27 水	2/28 木	2/29 金	3/1 土
朝食	ご飯(180cal) ヤクルト(50cal) 白飯のつまみ(180cal) 梅干(23cal)	食パン(200cal) ヨーグルト(30cal) キノコ炒め(75cal) カフェオレ(90cal) フロッピー(20cal)	ロールパン(200cal) ヨーグルト(30cal) ホットミルク(90cal) 豚うれみ草炒め(150cal) フロッピー(20cal) バナナ(40cal)	ご飯(180cal) ヤクルト(50cal) もずく煮(10cal) 大根煮(100cal) 味噌汁(50cal)	ロールパン(200cal) ヨーグルト(30cal) サラダ(20cal) オレンジ(60cal) カフェオレ(90cal)	食パン(200cal) ヨーグルト(30cal) かいわれ大根サラダ(10cal) ホットミルク(90cal) バナナ(40cal)
おやつ						
昼食	キツネうどん(400cal) バナナ(120cal) 漬物(10cal)	グラタン(323cal) キャベツサラダ(100cal) 色やしスープ(110cal)	中華丼(570cal) ワンタンスープ(106cal)	サンドイッチ(190cal) 鶏り野菜スープ(50cal)	三色丼(562cal) わかめスープ(60cal) リンゴ(60cal)	高野豆腐餅(115cal) キウイとワカメの缶(34cal) 味噌汁(50cal) ご飯(180cal)
おやつ						
夕食	ナスカレーライス(177cal) キャベツ炒め(150cal)	煮魚(200cal) ひじき煮(205cal) 味噌汁(50cal)	キャベツメンチカツ(504cal)	焼き魚(200cal) 白飯と茹でたのたまご(150cal)	サガの照り焼き(1193cal)	マグロのづけとごはん(421cal)

◎その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
ヒヤリハット報告書



◎利用者と共に過ごし支えあう関係
ホームでの「職員の結婚披露宴」



◎日常的な外出支援
◎地域とのつきあい
近所の神社での清掃活動も





▲ ホーム外観



▲ 居室の名札の工夫



▲ 共用スペースの飾り付け ▲

2. 第三者評価結果票

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「えみがこぼれる家庭…それが私のほこりです」を基本理念に、毎年の事業計画の立案時に、地域密着型サービスとしての“施設テーマ”を設定している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	今事業年度の施設テーマには、「地域の中で生きることを大切にしたいケアを実践すること」を掲げ、管理者と職員は、利用者が地域の方とのふれあいの機会が持てるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ミニデイなどの老人会や、夏祭り、秋祭り、地域清掃などの地域主催行事には、利用者に参加してもらえるように努めている。これら地域主催の行事は、運営推進会議で情報を頂いている。家族から要望のあった「こども達との交流」については中学校福祉部の教員と検討している。また、ホーム主催のふれあい喫茶を企画している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は事業所のホームページで公開している。評価の意義は家族懇親会で説明し、「ほおずき通信」でもお知らせしている。家族への送付も予定している。評価結果についての改善策は、職員会議で話し合っている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運勢推進会議は、2カ月に1回開催し、利用者代表、家族、地域代表、地域包括支援センター職員、管理者、計画作成担当者が参加している。会議では、ホームの事業報告を行うだけでなく、ボランティアや安全な散歩コースを紹介してもらったり、地域行事などの情報を頂いている。	○	運営推進会議では評価結果も議題に挙げ、改善について討議されたらどうか。家族全員に運営推進会議の議事録を送付し、討議内容の意見や要望をフィードバックする工夫をしてほしい。
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政主催のサービス事業者会議に出席している。町の健康福祉課に定期的に訪問し情報交換を行っている。町や保健所主催の研修は職員が順に受講している。今後は福岡市が作成した防災・福祉マップをもとに、具体的に市町連携を進めることを計画している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行のホーム通信「福咲の風」と「家族へのお便り」を家族に送付している。「福咲の風」には、ホーム行事を写真を中心に紹介し、「家族へのお便り」は、利用者個別の日々の暮らしぶりを報告している。年に1回の家族懇親会には9割の家族が参加し、ビデオ撮りした利用者の日々の様子を見て頂き、好評を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情窓口については、ホーム通信「福咲の風」で案内している。家族からの意見や要望は、職員連絡ノートに記入し、閲覧印欄を設け、全職員で共有している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員採用に関しては、地域性を配慮しながら、認知症ケアに適した人材の確保に努めている。常勤採用により利用者の馴染みの関係づくりを大切に考えている。すべての職員がホーム全体の状況を把握するためにも、1年に1度、1階・2階の職員の配置転換を行っているが、その際も利用者へのダメージがないように配慮している。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	マイチャレンジ制度を導入している。全職員が自己啓発と職能力アップのための目標を立てている。目標が達成できるように、管理者が面談を通じて指導し、メンタルヘルス面でのサポートも行っている。外部研修や、法人内研修の機会を確保している。ホーム内の研修(毎月実施)の内容については、職員からそれを募り、学びたい介護技術を中心に人材育成を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	キャラバンメイトや地域の同業者の勉強会に参加している。更なるサービスの質の向上の取り組みとして、兵庫県内の他ホームとの交換研修や相互訪問などを企画している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、本人にホームを見学してもらい、生活の場であることを感じてもらっている。職員は、自宅に訪問して、本人の不安を聴傾し、信頼関係を築くよう努めている。入所時は、納得できるサービスが利用できるように、暫定プランにてサービスを開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームが、より利用者主体で運営できるよう、“利用者自治会”の立ち上げを企画している。利用者一人ひとりの生活歴を活かした役割が持てるように、食事の献立づくりや行事の企画も、皆で支え合いながら行っている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>					
<p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>情報カードに基づいて利用者情報を共有し、本人や家族の意向を把握しながら、できる限り本人の望む生活が継続できるようにしている。カンファレンスは、利用者と家族に参加してもらい、意向を聴いている。</p>		
<p>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>センター方式を採用し、家族、担当職員(パートナー)、計画作成担当者等が情報を共有・検討し、利用者の希望を踏まえた介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>目標達成へ向けての5段階評価表を活用して、利用者、家族、必要な関係者が実績評価を行い、3か月毎に介護計画の見直しを行っている。利用者に変化が生じた場合は、随時カンファレンスを行い、利用者の状態に合わせて新たな介護計画を作成している。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>併設のデイサービスと合同で、夏祭りや餅つき大会などを行い、地域の方と交流する機会となっている。利用者の希望により、訪問理美容サービスを利用している。</p>		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の「吉田クリニック」には、月2回の往診のほか、電話相談にも対応してもらっている。1か月に1回、移動車によるCT検査を受けることができる。利用者や家族が希望するかかりつけ医への受診については、家族に協力をお願いし、必要な情報を提供している(必要に応じ、管理者等が受診の付き添いも行っている)。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、家族やかかりつけ医と相談しながら、方針を決定している。看取りに関しては、利用者や家族の意向を聴き、可能かどうか慎重に検討している。	○	ホームとして、重度化した場合や終末期ケアについて、「できること・できないこと」を明確に文書化することが望ましい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの保護については、毎年の研修計画に盛り込み、繰り返し研修し、プライバシーを損ねるような言葉かけをしないように職員同士で見直している。利用者への対応や個人情報の取り扱いには十分に注意している。記録は、イニシャルを用い、個人を特定できないよう配慮している。パソコンのパスワードの管理は、管理者が行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりに、各々のペースで、趣味や持てる力を活かせる「役割」を持ってもらい、ライフスタイルに合わせた生活ができるように支援している。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々、利用者と一緒に食事の献立づくりから調理、片付けまで行っている。月1回、利用者各々の希望する外食支援を行い、食事を楽しんでもらっている。2か月に1回、キッチン居酒屋風にし、カクテルなどを楽しんでもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2～3回に1回は日中の入浴を基本とし、入浴の順番は、利用者の希望にそえるよう配慮している。ゆずや菖蒲湯等の季節湯を楽しんでもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム庭で花や野菜を育てたり、編み物、習字、作品(貼り絵・こより作り)…等々、利用者一人ひとりの得意分野を活かせるように支援している。季節が感じられる行事(節分・ひな祭り・七夕・運動会・敬老会・秋祭り・クリスマス会・餅つきなど)を行っている。家族、主治医と相談した上で、喫煙・飲酒の機会も設けている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺や近くの神社への散歩、馴染みの理髪店、町内のスーパーへの買い物のほか、喫茶店などに出かけている。外出支援が特定の利用者に偏らないよう、職員が声かけに配慮している。中庭にテーブルと椅子を設置し、日光浴やお茶を楽しんでもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が施錠することの弊害について理解し、利用者一人ひとりの行動パターンを把握している。出入口は、人の出入りでチャイムが鳴るようにしており、日中は、施錠を行わず、開放している。防犯上、20時には施錠している。職員室をガラス張りし、常時、利用者の見守りができるよう工夫している。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回の避難訓練のほか、AEDの講習も実施している。運営推進会議で相談し、地域住民の方と協働して、避難訓練を実施するとを検討している。	○	災害時に地域の方の協力が得やすいよう、(個人情報にも配慮したうえで)利用者情報の整理が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事・水分摂取量の記録を行なっている。摂取量の少ない方は、特に詳細に記録し、摂取していただけの工夫をしている。状態に応じて量を調整したり、キザミ食・とろみ食を提供している。1日の摂取カロリーの計算もしている。受診時は、食事・水分摂取量をかかりつけ医に報告している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング・廊下には、写真や手作りのカレンダーを飾っている。季節感を大切に、利用者の作品や装飾品も飾り、冬はコタツを置いている。ボランティアの協力で、季節の花を玄関・廊下などに生けてもらっている。2階ユニットでは職員室をできる限り開放し、利用者がいつでも自由に過ごせる場所になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が大切にしていた物、使い慣れた家具、祭壇など馴染みのものを持ち込んでもらい、住まいとして心落ち着けるよう配慮している。居室ドアには、表札をかけ、生花教室の際に生けた花を飾っていた。利用者の状態や好みに合わせて、部屋を洋室(ベッド)から和室(畳敷き)に変更することもできる。家族の訪問時には、家族が利用者と一緒に居室の掃除をされることもある。		

※  は、重点項目。